

# 難聴放置が認知症の原因に

## 高齢者の補聴器購入に補助を

ハタノこうめ議員は、「高齢者の社会参加を支える方策の一つとして補聴器購入に補助を」求めて質問しました。

各務原市第7期介護保険・高齢者福祉に関するアンケートでは、「要支援・要介護になった原因は」の問いに認知症が24・5%でトップです。しかし市として難聴に着目した対策はありません。

補聴器への助成制度は、一般的に高度難聴といわれる70デシベル以上で障害者手帳が交付される方のみ補助制度があります。つまり40センチ以上離れると会話が聞こえない、という相当重度の難聴の方に限定して補助制度があるだけです。



## 難聴は認知症の最大危険因子

### 早期の補聴器使用が大事

世界保健機関（WHO）は聴力が中程度41デシベル以上を装着基準としています。その理由はこの基準は放っておくと更に低下し、認識できない音が増えていく。その段階で補聴器をつけた方が音の認識が保てるという意味ある基準です。

2017年開催の国際アルツハイマー病会議で、「認知症の約35%が予防可能な難聴、糖尿病、高血圧等の9つの原因により起こりうる」と考えられる。（表）その中でも難聴が9%であり、最大の危険因子であると発表されました。難聴は予防可能な最も大きいリスク因子とされています。

厚生労働省の新オレンジプランでも難聴は認知症の危険因子の一つとして上げられています。

9つの予防可能なリスク (%)	
中年期の聴力低下	9
中等教育の未終了	8
喫煙	5
うつ	4
運動不足	3
社会的孤立	2
高血圧	2
肥満	1
2型糖尿病	1
◆リスク要因の35%は予防可能と報告	

## 補聴器は高齢者社会参加の必需品

高齢に伴う難聴というのは前からありますが、今は時代の要請との関係で特に大変切実になってきていることです。つまり、政府も市も、高齢者の社会参加、定年延長や再雇用など生涯現役を求めており、耳が聞こえないということは社会参加の大きな障害になるこ

とから、補聴器は必要不可欠です。

ハタノ議員は補聴器は高齢者の社会参加の必需品。市はどのような認識か質問しました。市も補聴器の使用は社会参加の一助につながると答弁しました。

## 補聴器は40万円も 高額

### 市として補助を

### 市独自の補助は考えていないと答弁

欧米諸国と比較して日本の補聴器所有率は半分以下と極端に低くなっています。（グラフ）その原因は補聴器が高すぎることです。補聴器は大変な精密機器で人それぞれの聞こえに併せようとすると両耳で40万円以上になり、買うのをためらったりあきらめたりする方がたくさんおられます。特に低収入の高齢者は購入をあきらめ、聞こえないまま毎日を過ごすという深刻な問題となっています。

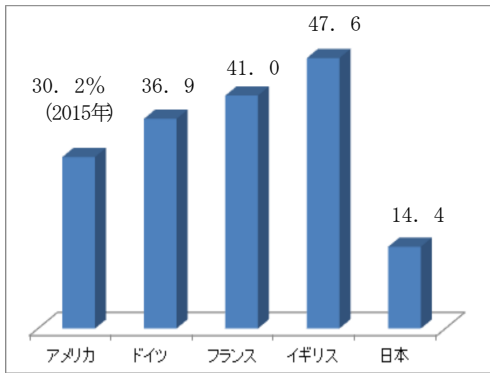
船橋市や東京では8区などでは独自の補助制度が実施されています。各務原市としても、高齢に伴う難聴者の補聴器購入に対する補助を求めました。市は、国の動向を注視し、現時点では市独自の補助制度は考えていないと答弁しました。

## フレイル予防」が大事

ハタノこうめ議員は「フレイル予防」がとても大事と強調しました。高齢者が健康な状態から要介護状態へと移行していく、その最初に訪れるのは社会との繋がりの低下であることが、既に東大の調査で明らかになっています。社会との繋がりを低下させないこと、要介護状態へとつながるその第一歩をしっかりとガードすること、とっても大切なことだと思えます。

難聴になっても補聴器を使って他者との会話を楽しみ、社会とつながることを諦めずに生きていける、そして最期までその人らしく生き活きと人生を楽しむことができます、そういう社会にしたいと大切だと結びました。

難聴の人の補聴器所有率 (2018年)



日本と欧米 公的補助に大きな差

水脈読者版 第211号

2019年6月27日発行 / 日本共産党各務原市議団ハタノこうめ、ながやてる子  
各務原市川島小網町2144-55 TEL 0586-89-3924 携帯090-9947-4988

